

## 1 インタビュー

# 人知を増幅し人の能力を最大限に活かした プレミアムライフ実現へのチャレンジ

NTT サービスエボリューション研究所（以下、EV 研）では、データサイエンスによる DX 推進とイノベティブなサービスの研究開発、サイバネティックインテリジェンスの研究開発に取り組んでいる。社会変化の兆しを変革の起点と捉え、これからの人々の生活や活動になくてはならないサービスを生み出そうとしている EV 研を取り巻く状況と、活動方針や取り組みなどについて、阿久津明人所長にお話を伺った。

——NTT および EV 研を取り巻く状況について教えてください。

**阿久津** 我々を取り巻く状況としてまず言及するべきことは、新型コロナウイルス感染症がもたらしたわれわれの価値観の大きな変化です。新型コロナウイルス感染症により 3 密を避けた対面接触を前提としない新たな生活様式が求められており、これまで対面で行われてきた様々なことがオンラインで実施され、身体性を超越した交流の可能性が出てきています。この流れは、コロナ禍収束後も継続することが想定されますが、一方で、エッセンシャルワークなどのリモート不可な職種の過負荷や遠隔化による個人の能力発揮不全、心的負担増などの問題が顕在化しています。また、NTT ドコモ社のモバイル空間統計等による、都市の人口分布の変化や移動状況のリアルタイムな把握、公共交通機関におけるダイナミックプライシングの導入検討など、社会システムのリデザインの兆しも見えてきています。我々はこの状況を変革の起点と捉え、NTT グループ中期経営戦略や IOWN 構想の実現を通して、人々の活動になくては

ならない革新的なサービスに向けた技術の研究開発を進めていきます。

——2020 年度の取り組み方針についてお聞かせください。

**阿久津** EV 研は、革新的サービス創出に資する基盤技術の研究開発に加え、所間・社外連携を図りながらサービスデザインを洗練し、他所・他総研・他社の技術も含めてシステムを組み上げ、ビジネスを見据えたプロダクト化を加速することで、B2B2X の創出へ寄与することをビジョンとしています。

2020 年度は我々を取り巻く状況を踏まえ、取り組むべき課題とその解決に向けた以下の二つの方針を策定し、研究開発を進めています。

一つ目は、タイムラインに沿って社会システムをシミュレーションし、過去を再現、未来を創ることにより、社会の未来予測と全体制御の最適化、ヒトの来歴（ナラティブ）による行動原理の解明とそれに基づく行動の変容で、社会課題の解決を実現します。

二つ目は、対面を前提としない生活様式にあって、その場に行かずと



NTT サービスエボリューション研究所  
所長 阿久津 明人氏

も実在感のある人のリアルな活動を、形態を問わずリアルに体感できる技術で、新たなサービスを創出し、新領域の開拓を実現します。

——一つ目の方針に基づく具体的な取り組みについてお聞かせください。

**阿久津** まず、過去の情報に基づき、数理モデルをベースとしたシミュレーションにより、業種・業態を横断して価値を最大化できる重要な課題を探索・同定し、その解決に向けて、クロスドメイン DX の研究開発を行っています。例えば、農業における取り組みでは、生産から物流、消費に至るまで様々な業種・業態を跨った工程があり、それぞれで収集可能なデ

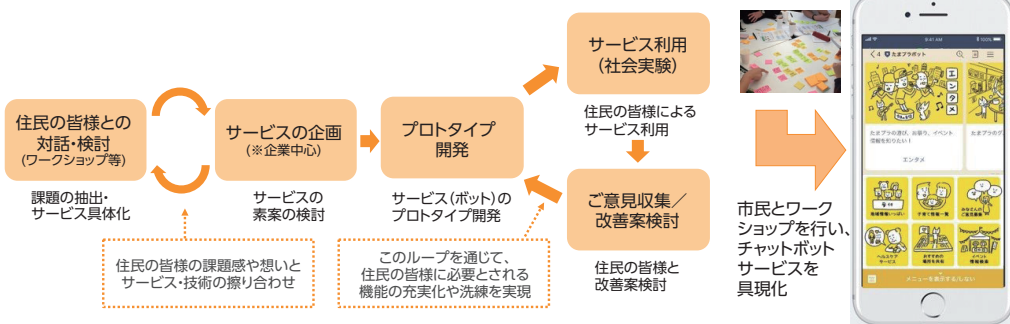


図1 たまプレーザでの取り組み

ティ・フィールド」と、身体の壁を越えた心身活動、知覚、意思・意図の瞬時転送・フィードバックにより、ヒトがその場においてリアルに活動し体感できる「ウルトラリアリティ・アバター」、操作から動作へ、直接モノへ作用する「ウルトラリアリティ・コネクト」を

ータを活用し、全体での価値最大化をめざしています。研究者自ら関連分野の事業会社とともにドメイン知識の獲得を行い、実課題解決に向けた研究開発に取り組んでいます。

次に、パーソンセンタードデザインの取り組みです。これは、誰もが参加できる共生社会に向け、住民・自治体・企業が共に地域価値を最大化するリビングラボの取り組みを通して、個人の主観的な記憶、断片的な記録からその人の過去の来歴を抽出します。その行為・状態に至る原因の経緯や、住民や専門家など多様な人々の対話・関係性から、コミュニティの過去を再現、地域課題の成り立ちの経緯を獲得し、解決策の社会実装を行います。この具体的な取り組みのひとつとして、たまプレー

ザ地域のナラティブから獲得された課題「コミュニティ活性化」に対して、横浜市・東急・NTTドコモと連携し、住民と共にデザインした、NTTドコモの「たまプラボット」があります(図1)。

——二つ目の方針に基づく具体的な取り組みについてお聞かせください。

**阿久津** EV研は、自らが場所や形態を問わずリアルに活動し体感できる状態を作り出すことで、時空間の壁や身体の壁を越え、新たな「ヒトの実体・存在」である、サイバネティック・テレポーテーションの実現を目指しています。具体的には、時空間の壁を越えた場の転送・共鳴により、あたかもそこにいるかのようなリアルな場を拡張する「ウルトラリアリ

実現する基盤技術の研究開発に取り組みます。ウルトラリアリティ・フィールドの実現のひとつとして、開発した基盤技術を活用し、あたかもそこにいるかのようなスポーツ観戦体験ができるURV(ウルトラリアリティビューイング)のプレサービスがあります(図2)。

——今後の方向性、ご自身の抱負などお聞かせください。

**阿久津** 実課題に向き合い、社会課題解決型ビジネスを通して世の中を変える流れを作るため、事業会社やパートナーとともにその最初の流れを我々は研究開発でタイムリーに生み出したいと考えています。

——本日はありがとうございました。

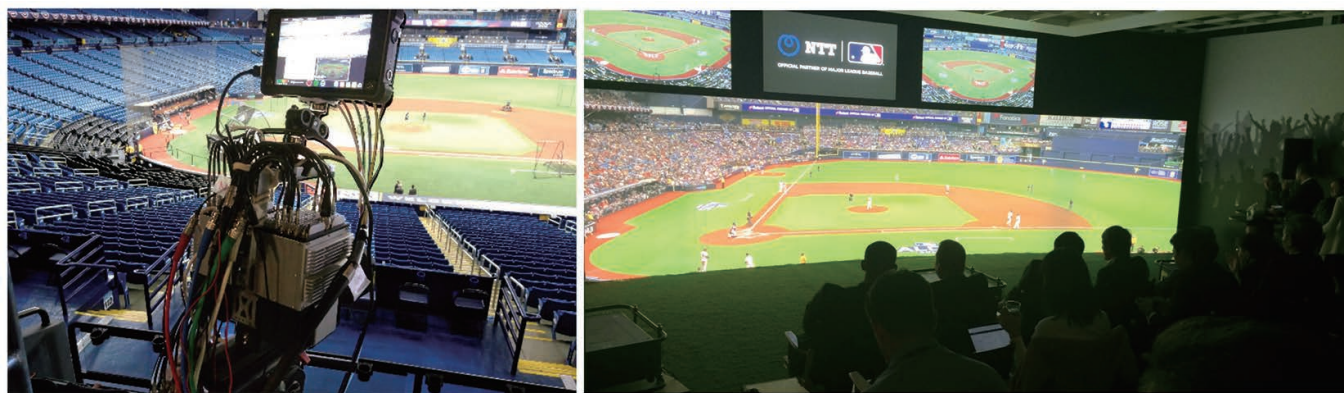


図2 URV：ウルトラリアリティビューイング